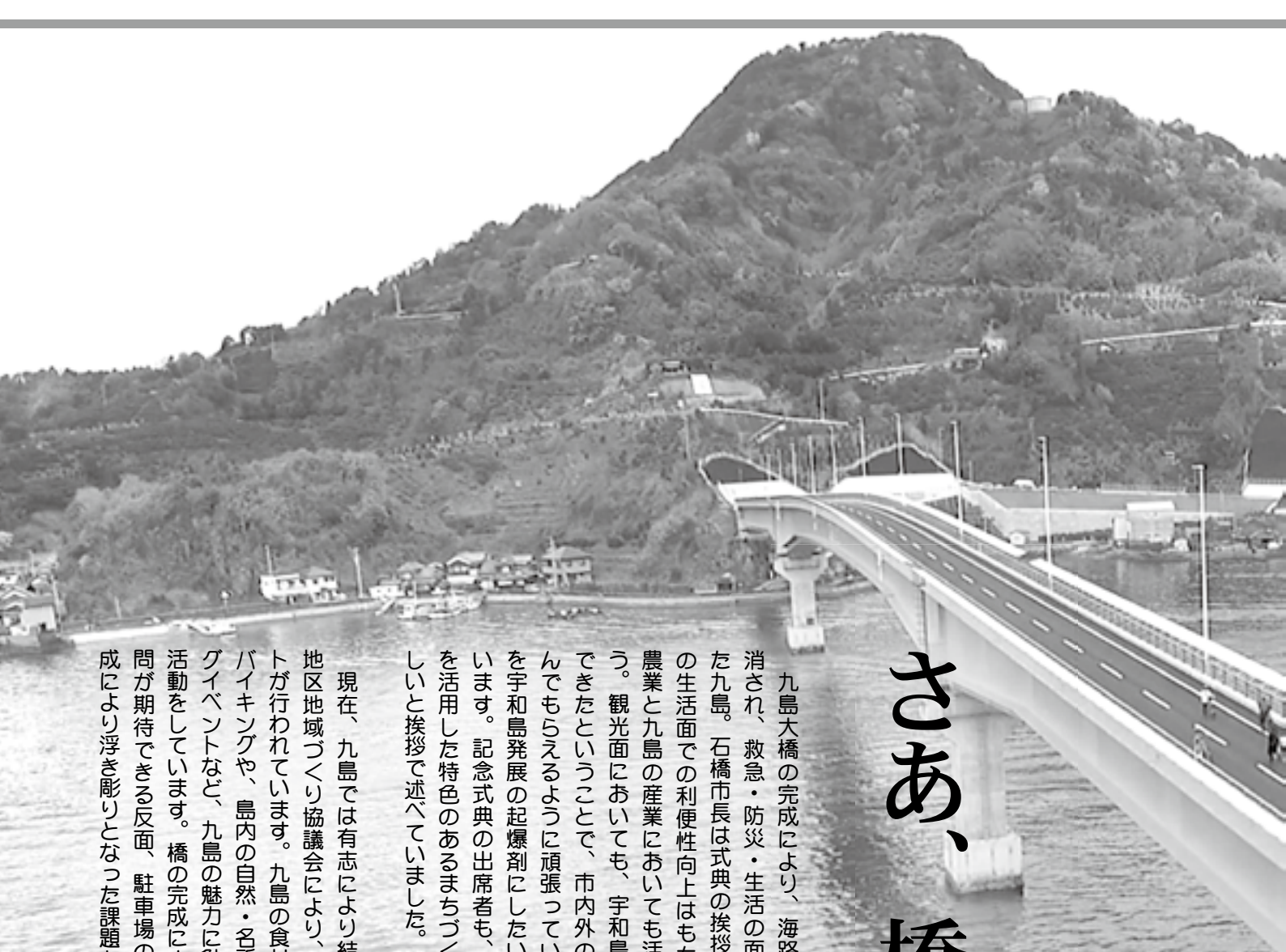
九島大橋 開通

4月3日(日)、九島大橋の開通により、九島と宇和島本土が繋がりました。およそ30年前から本格的に架橋の要望を続けた、九島の皆さんの努力が結実した日となりました。

「嬉しさもだが、目的の達成を第一に考えて活動してきたので、ほっとしているというのが一番。観光客の増加など、橋の効果が波及して宇和島の町が元気になるのが理想なので、宇和島のために九島を利用して欲しい。多くの人に訪れてもらえる島となるように、維持・管理など独立的に経営ができる仕組みが必要と思うが、後のことは後輩に託したい」

このように橋が架かった感想を語るのは、平成12年から九島架橋促進協議会で会長として架橋実現のために尽力してきた、平井 利彦 さん。重責から解放された安堵感と、九島大橋完成後の九島のことを案ずる姿が印象に残りました。



さあ、橋の向こうへ

九島大橋の完成により、海路交通の不便さが解消され、救急・防災・生活の面で利便性が向上した九島。石橋市長は式典の挨拶で、「住民の皆さんの生活面での利便性向上はもちろんだが、漁業・農業と九島の産業においても活性化に役立つと思う。観光面においても、宇和島に1つの観光地ができたということで、市内外の人にも九島を楽しんでもらえるように頑張っていきたい。九島大橋を宇和島発展の起爆剤にしたいと思う」と述べています。記念式典の出席者も、住民の皆さんに橋を活用した特色のあるまちづくりをおこなって欲しいと挨拶で述べていました。

現在、九島では有志により結成されている九島地区地域づくり協議会により、さまざまなイベントが行われています。九島の食材を多用したランチバイキングや、島内の自然・名所を巡るウォーキングイベントなど、九島の魅力に触れてもらうために活動をしています。橋の完成により、多くの人の訪問が期待できる反面、駐車場の不足など、橋の完成により浮き彫りとなった課題も見えてきました。

九島の住民代表で組織される九島総合開発推進協議会の会長 山瀬 忠弘 さんに、橋が架かった後の九島について伺いました。

「イベントなどのソフト面については、地域づくり協議会が担当しているので、九島総合開発推進協議会としては、インフラなどの環境整備、ハード面の整備を要望していく予定。島内には未舗装で細い道もあるので、海岸道路の整備、トイレ・駐車場の整備などの要望をおこなっていきたい。橋が架かるまでは、『橋が架かってから考えよう』という気運があった。橋が架かったことにより、生活は確実に便利になると思う。ただし、交通量の増加・駐車場所の少なさ、診療所の閉鎖など、実際に橋が架かって、驚くこと・不便になることも分かってきた。『橋が架かった』今からが九島のリスタートよね」

九島大橋の完成が終点ではなく、完成後の九島地域について、住民の皆さんが考え、課題へ向き合う姿を見ました。

訪問しやすくなった九島へ、橋の向こうまで、皆さんも足を延ばしてみませんか？